

# 農業技術

## プリズム

ミカン「させぼ温州」は高品質で市場評価が高く、高単価が期待できる品種です。半面、隔年結果性が強いいため、収量が安定しにくい欠点を持っています。着果量が少ないと糖度が上がりにくく、果頂部に突起（へそ果）が発生して商品性の低下を招きます。こうした現象は、「させぼ温州」の樹勢が強く根の活動が活発なため、余分な養水分を吸収することが要因の一つと考えられます。

根の活動の制限により樹勢をコントロールするため、わい性台木のヒリュウの活用について検討しました。

従来の台木であるカラタチと比べ、ヒリュウは水の吸収力が弱く、根が浅く張る性質を持

ち、台木に用いると木の生育が制限されます。ヒリュウ台の「させぼ温州」は、枝の徒長が抑制されて木がコンパクトになります。樹容積が小さくなり1樹当たりの収量は減少します

### ミカン「させぼ温州」

## わい性台木の活用で樹勢をコントロール

が、年による着果量の変動が小さくなって隔年結果性が改善され、収量が安定しました。さらに、シートマルチ栽培と組み合わせて、併せて、果頂部の突起が小さくなって商品性が向上する

台木の違いが「させぼ温州」の樹容積などに及ぼす影響

台木	樹容積 (m <sup>3</sup> )	収量 (kg/樹)	収量の変動係数 <sup>1)</sup>	糖度 (Brix)	酸含量 (g/100ml)	果頂部突起指数 <sup>2)</sup>
ヒリュウ	1.8	11.7	20.1	14.2	0.95	27.6
カラタチ	4.9	15.3	71.3	12.0	0.93	47.6

※ 数値は2009~12年の平均、樹容積だけ12年の調査

1) 数字が小さいほど隔年結果しにくい

2) 数字が小さいほど突起程度（へそ果）が小さい

ことも明らかとなりました。

ヒリュウ台「させぼ温州」は、コンパクトな樹型を生かして、面積当たりの植栽密度を上げることで収量を確保することが可能で、摘果や防除などの作業性向上も期待できます。

（県農林技術開発センター・荒牧貞幸）